

2009 Grand Prix Tournament

主催 Racquetball Grand Prix Tour

期日 2009年9月19日(土)～9月20日(日)

会場 サンピア多摩

大会レポート

平成21年9月のシルバーウィーク初日から2日間に亘り、東京都多摩市にあるサンピア多摩を会場に Racquetball Grand Prix Tour 主催のラケットボール大会が開催されました。

日頃、各スポーツクラブや大学サークルにてラケットボールを楽しんでいる多数のプレイヤーが、関東近郊だけでなく関西・北陸からも駆け付けて頂き、また下は現役高校生からもうすぐ還暦を迎えるという方までの幅広い年齢層の皆様に集まっていただきました。

ホームページのトップにあるとおり【**For close contest game**】接戦・混戦をして頂きたいとのコンセプトのもと独自のクラス分けにて大会運営としておりますが試合内容を見ていますとまずまず上手くいっていると思える熱く最後まで結果の判らない試合が数多く行われていました。

① 9月19日(土)

オープンクラスMIXダブルス



日常的にダブルスを組んで数多くの大会に出場経験のあるペアは勿論のこと、今回の大会エントリーの為に即席で組まれたペアも数多く出場いただき予選リーグ戦を勝ち抜いたペアによる決勝トーナメントでの優勝決定となりました。

MIXダブルスはやはり男性の攻撃力をどれだけ女性がしのげるか、また男女混合とは言えあくまでも真剣勝負ですから男性がどこまで真剣でガチのプレイができるかがカギになるとおもわれます。ただし狭いコートの中での4人プレイ故に男性任せだけでは無理があるのでペア同士のコンビネーションが最も重要な要素になるのは通常のダブルスと変わりません。大会を通じてワンサイドで雌雄が決したゲームは稀でシングルスでの対決ならばもっと差がつきそうなペア同士の対戦でも中々の熱い戦いを見ることができました。

それ故にリーグ戦を勝ち上がったの決勝戦はフルセットタイブレークの大熱戦となり、光山選手・永末選手のダイビングキャッチ有り、関口選手・鈴木選手のロールアウトするピンチショットや絶妙なコースを突くパスショット有りの見ごたえ十分の試合を見せていただきました。

② 9月20日(日)

B・C混合クラスシングルス



本来ならBクラス・Cクラスも分けての開催が良かったのですが日程・会場の関係で混合クラスでの開催とさせていただきました。Cクラスでのエントリー希望のプレイヤーのにとっては少し厳しいクラスとなりましたが数多くのプレイヤーがチャレンジしてくれたようです。このクラスにはB・Cクラスとはいえ素晴らしいプレイヤーが数多く参加して頂いておりましたので、筆者が観戦出来た何人かの事について記してみたいと思います。

まず、参加選手中最年少の矢嶋選手はボールに対しての反応・ショット力共にその浅いラケットボール経験から想像できないプレイを見せてくれました。オープンシングルスとのダブルエントリーをした石田選手は参加選手中で最もタイトなスケジュールで大会を戦い抜き数多くの試合を戦い最後まで足を止める事無くまた気の抜けたショットを繰り返すこともない熱いプレイを最後まで続けてくれました。

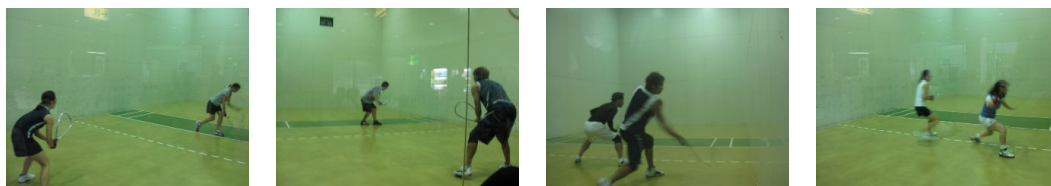
女子選手では高岡選手・田村選手の両選手ともラケットの面使い・ボールに対しても反応は並々ならぬ物を持っていると感じました。これからの練習次第で必ずやオープンクラスで勝ち上がれる選手になれると思いますので是非とも頑張ってもらいたいです。

決勝戦は男子が3人総当りのフルセットというサバイバルマッチで行われ、体力・技術・気力の全てが要求される試合形式のなか、経験値で一歩上を行く青木選手が優勝の栄冠を手に入れました。女子は奇しくも同門対決となりましたが馴れ合う事無い気迫溢れる内容で、勝ち上がって対戦した田中選手は絶妙なコース突くパス中心のクレバーショットを数多く繰り返し、それに対して小林選手は気迫溢れる大きなフォームから繰り返すパワフルなショットで対抗し戦い抜きましたがレシーブ力において若干上をいく田中選手の頭上に優勝の栄冠は輝きました。

此処にあげた選手だけでなく全ての選手がこれからの練習によって必ずやオープンクラスに挑戦できるようになれるので今後も是非ともラケットボールを続けてもらいたいと切に思います。

③ 9月19日(土)～9月20日(日)

オープンクラスシングルス



間近に全日本シングルス選手権が迫っている為に、その調整として参加したプレイヤーもいれば、対照的に全日本選手権には参加しないので真剣勝負の場を求めて参加した選手やチャレンジでオープンクラスにエントリーした選手を交えての3セットマッチ(15-15-11)の公式戦ルールでのトーナメント形式での開催となりました。

男子シングルス第一シードには Racquetball Grand Prix Tour 主催者であり、直近の世界選手権・ワールドゲームズのラケットボール日本代表に選出された廣瀬選手、第二シードに関西のトッププレイヤーで世界選手権日本代表になったこともある船谷選手を配してのドローとなり、この両トッププレイヤーに他の選手が挑戦権を得るために勝ち上がり戦という構図ができていました。二人と対戦した各選手は微塵も臆する事無く終始チャレンジのプレイスタイルを貫き通してくれました。特に廣瀬選手と対戦して二桁得点を奪った森選手や船谷選手と各セットとも中盤までシーソーゲームを展開した松原選手は素晴らしい試合を見せてくれたと思います。

決勝戦は大方の予想通り廣瀬選手 vs 船谷選手となりました。最近の対戦成績だけでみれば圧倒的に廣瀬選手が有利と思われましたが船谷選手は持ち味である驚異的な守備力を駆使して廣瀬選手の火の出る様はスーパーショットをダイビングキャッチの連続で拾い捲り、甘くなったショットを逆にピンチショットや絶妙な力加減のパスショットで得点を重ねる展開となり優勝を手にしました。間近に迫った全日本選手権での活躍も期待できるとおもいます。廣瀬選手はこの敗戦をバネにして全日本選手権2連覇を是非とも達成して欲しいですね。

女子シングルスは現役日本代表のような飛び抜けた選手の参加はありませんでしたが全日本選手権入賞経験者や JAPAN OPEN ベスト8進出、また他にも全日本選手権参加常連のプレイヤーが出演しており、混戦が予想されました。1回戦こそ力に差のある対戦も若干ありましたが準決勝2試合は共にフルセットタイブレークとなり、戦った宇野選手、鈴木選手は敗れたとは言え決勝に進出してもおかしくないプレイをしていたと思います。

女子決勝は最近の様々な大会で結果を残している北風選手と輝かしい実績をもつ関口選手の対戦となりました。結果としてショット力・展開力で勝る関口選手が、MIXダブルスとのダブルエントリーで2日間にわたって数々の試合を勝ち抜きダブルタイトル奪取、無敗の女王となりました。

今回、大会開催にあたり多数の方に協力いただき本当に感謝しております。



景品として革製品を提供頂きました

(提供 ティップネス船橋所属プレイヤー 小林 誠 様)



優勝・準優勝の副賞としてサプリメントを提供頂きました。

(提供 プロパーソナルトレーナー 永末 貴之 様)

永末トレーナーは廣瀬尚昭選手・船谷貞夫選手のトレーニングをサポートしています。

各種スポーツにおけるパフォーマンス向上、リバウンドのないダイエットには定評のあるトレーナーでプロスポーツ選手やオリンピック選手の肉体改造もサポートしている一流トレーナーとして現在注目を集めています。

トレーニングについてのお問い合わせは physical_29@yahoo.co.jp こちらまでお願いします。

最後に、限られた時間・コートで多数の試合を行う為にタイトなタイムテーブルになったり、連続での試合になったにも関わらず笑顔で試合に臨んでいただいた選手の皆様、連続する試合の都合で手が足らなくなった審判を代行いただいた方、各クラブ・学校から応援・引率の為に会場に足を運んでいただいた皆様、更には大会に関わって頂いた全ての皆様本当にありがとうございました。

皆様の協力無しには大会開催は不可能と言ってよい位、力を貸していただきました。

ラケットボール環境は悲しいことに益々厳しさを増す一方で有りますが、少しでも競技を盛り上げるために今後も活動していきますので今後もよろしく願いいたします。

次回、大会で皆様の笑顔を拝見するのを楽しみに筆を置かせていただきます。

(レポート文書 Racquetball Grand Prix Tour サポートスタッフ 石田周也)